



# まちの応援プロボノチーム

## 2025年度 事例のご紹介



# 「まちの応援プロボノチーム」について



## ● 概要

「まちの応援プロボノチーム」は、各町会・自治会が抱える個別の課題や先行事例が少ない課題を解決すべく、5名前後のプロボノワーカーチームが町会・自治会の皆さんのお声を聞きながらプロジェクトを推進し、町会・自治会毎の成果物を提供するプログラムです。

## ● 支援内容例

町会・自治会が抱える課題・ニーズの例

### 運営を改善したい…

運営の担い手を増やしたい  
作業負担を軽くしたい  
事務作業を効率化したい

### 参加の輪を広げたい…

行事の参加者を増やしたい  
若い世代に関心を持ってほしい  
加入率を高めたい

### 活動を刷新したい…

新しいイベントを企画したい  
既存の活動を見直し改善したい  
住民の希望・ニーズを知りたい

運営改善のための  
組織づくりをサポート

より効果的な  
情報の伝え方や  
活動方法の提案

住民の声を集め、  
活動のあり方を  
一緒に見直し

プロボノによる支援内容の例

作業内容の見える化・整理のための  
業務の棚卸し、効率化の提案

初めての参加者でも手伝える  
運営マニュアル作成

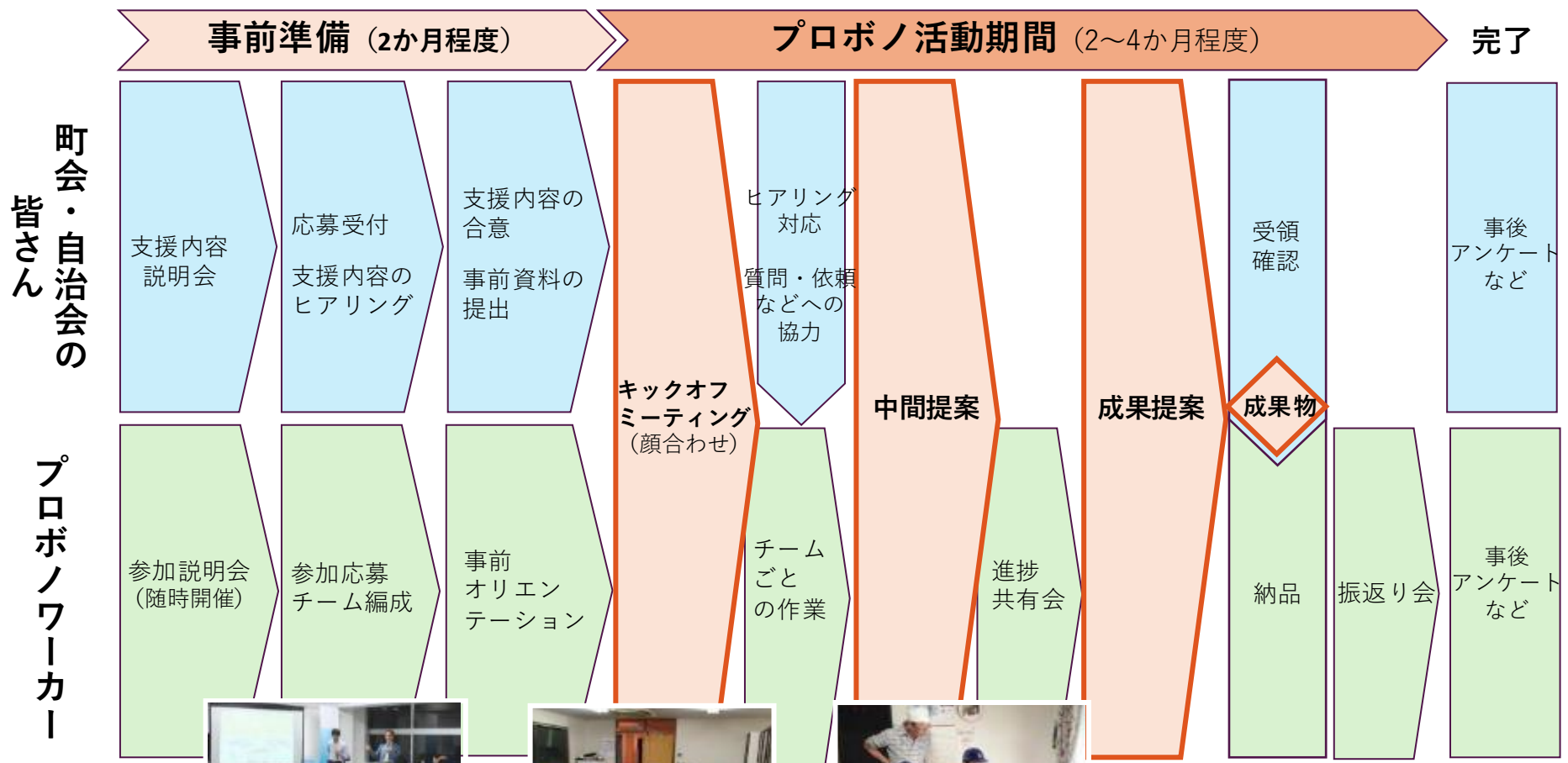
実現可能なイベントを  
一緒に考えて企画立案

団体の活動の魅力を伝える  
チラシ・パンフレットの改善

課題の見える化、解決策の提案

住民ニーズ（意識・期待）調査

# 「まちの応援プロボノチーム」について



プロボノチームは事前に集まり、プロジェクトの準備を開始します。



町会・自治会とプロボノチームが初対面し活動への理解を深めます。



住民の皆さんへのヒアリングや成果物の作成など目標に向けてチームごとに作業を進めます。

※打ち合わせは、状況によりオンラインで実施

# 町内会の魅力が伝わると、つながりが生まれ・持続するパンフレット 木曾中央町内会[町田市] 構成世帯数 約250



## ●プロジェクトと成果物の概要

**支援内容：** 町会の魅力を伝えるパンフレットの作成

- ポイント：**
- ① これまでに取り組んだことのない「町内会の魅力の言語化・視覚化」にチャレンジ
  - ② 簡易版のポスター・チラシ、MAPや年間イベントも入った詳細版の三つ折りパンフレットの2種を作成
  - ③ 情報発信を通じて新たなつながりを広げられるよう、町内会の方々に向けた「Canva勉強会」を予定（※2月26日時点）

町田市の中央に位置し、町田駅からバス約15分、古淵駅を最寄りとする緑豊かな住宅街です。かつては5つの町内会・自治会と一体で、現在も祭りを合同開催するなど連携が続いています。約500世帯のうち加入は半数程度で、退会の増加や新規入会の減少、担い手不足が課題となっています。

木曾中央町内会ではこれまで、活動の魅力を言語化・可視化するツールがなかったため、既存会員や住民へのヒアリングなどを基に、パンフレットを作成するプロジェクトを行います。新たな住民に町内会を知ってもらうとともに、会員間での意識の共有につなげることで、より安心して暮らせる地域づくりを目指します。

▼中間提案時



▼成果提案時





# 大型マンションのゆるやかなつながりづくりに向けたLINE活用提案

## THE TOKYO TOWERS自治会[中央区] 構成世帯数 約2,800



### ●プロジェクトと成果物の概要

**支援内容：** コミュニティづくりを支えるためのSNS活用設計

- ポイント：**
- ① 自治会公式LINEでのアンケート実施により、現状のLINE受け取り手の属性やニーズを把握。
  - ② 多世代へのヒアリングにより、ファミリー、シニア、外国籍といった層ごとに異なるニーズや考えを丁寧に聞き取り、把握。
  - ③ 自治会公式LINEを「関係性を育む場」と再定義し、効果的な情報発信方法を提案。

中央区勝どきにある大規模タワーマンション「THE TOKYO TOWERS」（約7,000人居住）の自治会は、住民同士や周辺地域のコミュニティ形成を担う役割として活動を行っていますが、住民の関心の低さや自治会活動の認知不足などの課題を抱えています。特に、既存の情報発信はイベント告知的な活用が主であり、自治会がコミュニティづくりに取り組む思いや意義が十分に伝わっていない状況でした。

今回のプロジェクトでは、LINEアンケートや多世代・外国籍住民、サークル運営者へのヒアリングを通じて住民ニーズを調査・分析。情報発信を単なる告知にとどめず、関係性が育つツールに転換し、無関心層とのゆるやかなつながりづくりにつなげるための情報発信設計を提案しました。

▼中間提案時



▼成果提案時



# 大型マンションのゆるやかなつながりづくりに向けたLINE活用提案

## THE TOKYO TOWERS自治会[中央区] 構成世帯数 約2,800



### ● プロジェクトの流れ

キックオフ ミーティング	互いの自己紹介のあと、役員のみなさんに自治会の現状や課題を詳しく伺うとともに、プロジェクトの進め方やゴールを確認。今回のプロジェクトに対する期待や背景の思いなどへの理解が深まる時間となりました。
調査・ヒアリング 実施	チーム全員で「コミュニティフェスティバル」に参加し、地域の活気と住民の様子を肌で感じました。また、公式LINEでのアンケートに加え、ファミリー層、アクティブシニア、外国籍住民、サークル運営者への個別ヒアリングを行い、ニーズを把握しました。
中間提案	調査結果に基づき、LINEが住民向けツールとして有効であることや、サークル活動を通じた活性化の可能性を報告。残りの調査計画や成果物の方向性を提案しました。
成果提案	これまでの調査結果を踏まえながら、マンション内でゆるやかなつながりづくりを広げるための公式LINE活用の方法を提案。また、調査を通して見えてきた自治会の強みとともに、サークル活動と連携した横のつながり拡大の方向性についても、チームの気づきとともに提案しました。

### ● 成果物 (一部抜粋)

#### アンケート・ヒアリング結果のまとめ

現役世帯は「実利な情報・つながり」へのニーズが高く、世代が上がるとコミュニティ意識UP！  
LINE配信頻度は維持しつつ、イベント情報のほか地域の情報や子育て情報等、間口の広い交流の機会や情報発信で、つながり強化へ

<b>外国籍住民</b> ビジネスなどを通じた実利ベースの場からコミュニティへ	<b>ファミリー世帯</b> コミュニティというよりは、子育て関連情報が欲しい！	<b>アクティブシニア層</b> 生活に役立つ情報がほしい。時間に余裕があるので、コミュニティ参加にも興味あり
--	---	--

**LINE配信頻度**  
アンケート回答者3%大半は、配信頻度を「適当」と感じている。「多い」回答も一部あるが「少ない」回答はないため、現状維持が適切。

**興味関心**  
ファミリー世帯は「子育て情報」の他、「グルメ」「地域交流」にも関心あり。シニア層は、「健康」「地域交流」「地域のお得情報」にも関心あり。

#### (ご提案②) 配信先のセグメント分け

配信を全員に一律→セグメント分け(ファミリー、シニア、外国籍)で興味関心に沿った内容にすることで、開封率&LINEへのマインドシェアUPへ

Now	Better	Best
①機能情報 ②生活支援情報 ③イベント情報	全員に同じ情報を配信	メッセージ自体でセグメントし 全員に同じ情報を発信する

※機能情報は一律、生活支援情報やイベントを各層に切り分けて配信するなど、コンテンツによって配信先はご検討ください。

#### (ご提案①) 情報配信を3段階設計に

ヒアリング結果から実利な情報のニーズが顕著  
LINEでの情報配信を3段階で設計し、バランスよく

イベントお知らせに寄った配信

3段階設計で好意が積み

①機能情報(マンション修理...)  
②生活支援情報(マンションや...)  
③イベント情報(自治会行事、サークル活動)

なんか色々やってるな

参考になる情報沢山で助かる！次のイベントは参加してみよう

#### (ご提案③) サークル活動と連携した横の繋がりを拡大

間口を広げたサークル活動や地域団体との連携により、ゆるやかな繋がりを

既存サークルとの連携	新規サークルの立ち上げ	地域団体との連携
<b>&lt;フォトサークル&gt;</b> ex) 子ども向けスマホ撮影会 ex) 観向けの写真鑑賞教室	<b>&lt;映画サークル&gt;</b> 場所さえあれば低コストと世代問わず参加でき、顔見知り増	<b>&lt;勝どき枝豆プロジェクト&gt;</b> コミュニティファーム活動や子ども食堂などを実施
<b>&lt;TTT Language Exchange&gt;</b> ex) 大人のビジネス英会話 ex) 選べるから的美食話！	<b>&lt;ボードゲームサークル&gt;</b> 場所さえあれば低コストと世代問わず参加でき、顔見知り増	<b>&lt;中央区社会福祉協議会&gt;</b> 地域に開かれた多世代交流の場所として、様々なイベントを開催

# 期間限定で関わる「新・下五サポーター」募集チラシの作成 下目黒五丁目自治会 [目黒区] 構成世帯数 約1,350

## ●プロジェクトと成果物の概要

**支援内容：** 新たな担い手の募集用キャンペーンツール作成

- ポイント：**
- ① プロボノチームが、イベント見学や、住民へのアンケート、役員・積極的な参加者へのヒアリングを実施し、ニーズや参加の障壁を特定。
  - ② 調査結果をもとに、自身のライフスタイルに合わせて期間限定で関われる「役員より軽い位置づけの枠組み」のネーミングを提案。
  - ③ 対象者層の不安に答えるQ&Aや、具体的な活動内容を明示した募集チラシの雛形を制作。

下目黒五丁目自治会（目黒区下目黒五丁目 約1,350世帯）は、林試の森公園を擁する豊かな自然や歴史的な名所、さらに大使館もあることから多文化が共生する側面も持っています。2020年度からの運営改革で、行事参加者は5年で約3倍に増加。現在は「出来る人が出来る時に出来ることを」を掲げ活動を推進しています。そんな中、まだ「自治会は大変そう」というイメージが強く、新たな役員候補との接点づくりに課題を抱えています。

今回のプロジェクトでは、30代から50代をメインターゲットに、新たな担い手をリクルートするためのキャンペーンツールを作成。プロボノによる第三者の視点で、魅力の言語化や、ポスト役員にアプローチするための施策を団体と共に検討し、次世代を担う人材募集のチラシに落とし込んでいきました。

▼成果提案時





## ●プロジェクトと成果物の概要

**支援内容：** 住民が見たくなる！ウェブサイト改善方針の提案

- ポイント：**
- ① プロボノチームがウェブサイトの役割を示したコンセプトを立案。メインコンテンツを「3本柱」とし、住民の訪問の動機付けを提案。
  - ② ウェブへの動線強化のために、回覧板や掲示板など紙から誘導する具体的な工夫を提案。
  - ③ スマートフォンでの見やすさを考慮し、トップページから迷わず目的の情報にたどり着くための導線を提案。

白鷺町会（中野区白鷺1丁目・2丁目、約3,500世帯）は、新旧住民が混在する多世代地域です。現在のウェブサイトは情報量が非常に多く、整理が不十分なため「本当に伝えたいことが住民に届きにくい」という課題を抱えていました。

プロボノチームが、ウェブサイトの目的を再定義し、「どのような情報を、どのように見せるべきか」を具体的な構成案としてまとめました。併せて、町会の皆さまが今後無理なく情報を発信し続けられるような運用体制についても配慮していきました。

このプロジェクトを通して、団体はウェブサイトを通じた単なる情報置き場ではなく、地域のつながりを育むための大切なきっかけづくりの場へと転換することを目指していきます。

▼中間提案時



▼成果提案時



# いつでも見つかる・つながる白鷺町 一まちの安心情報サイトー 白鷺町会[中野区] 構成世帯数 約3,500



## ● プロジェクトの流れ

キックオフ ミーティング	団体とプロボノチームとの初顔合わせ。団体の情報発信の現状と課題、ヒアリング対象者の確認、リサーチ要件を双方で確認しました。
調査・ヒアリング 実施	プロボノチームが、現行サイトの分析に加え、他町会の先進事例を調査。並行して、団体から紹介のあった対象者に、ヒアリングをオンラインで実施しました。ウェブサイトから得たい情報について、世代ごとの声を収集・整理していきました。
中間提案	プロボノチームが、ヒアリングと調査結果に基づき、コンセプトと、改善の方向性を提案。団体との議論をへて、ウェブサイト改善の方針案作成のための方向性について合意形成しました。
成果提案	中間提案で合意した内容に基づき、プロボノチームから、メインコンテンツを「3本柱」とした構成案や、ウェブサイトの閲覧数を増やすための様々な施策を提案。チームの案をヒントに団体様からさらに発展させたアイデアが出されるなど建設的な場となりました。

## ● 成果物 (一部抜粋)

### 3. ウェブサイトの改善方針 -コンセプト- (再掲)

**白鷺町会ウェブサイトの役割・目的**

白鷺町の人々が、地域で生活する上で必要な情報を、「まとめていつでも簡単に」確認できる集約される場所

「いつでも見つかる・つながる白鷺町 一まちの安心情報サイトー」

今回の改善ポイント提案の範囲

### 5. 改善ポイント①: デジタル回覧板について

デジタル回覧板は、「まとめていつでも簡単に」必要な情報を確認できる場所を担うコンテンツの1つです

※解決できること: 情報伝達の遅れ・見逃し防止

これまで

これから → これまでの紙回覧板 + デジタル回覧板へ

### 5. 改善ポイント②: 防災情報のコンテンツイメージ

トップページからの導線を強化し、防災情報を1ページにまとめたページを作成します。防災に関する町会情報や、中野区HP・関連団体HPを紹介します。

### 5. 改善ポイント③: イベント情報のコンテンツイメージ

①トップページ

②イベント情報

③年度イベント

④各種記事

⑤過去イベントレポート

# 町会活動への関わりしろを生み出すための住民意識調査 & 提案 宮三町会[中野区] 構成世帯数 約1,000



## ● プロジェクトと成果物の概要

**支援内容：** 住民意識調査の実施および結果の分析に基づいた施策提案

- ポイント：**
- ① プロボノチームが住民アンケート内容を設計。町会側との迅速な連携で1,000世帯に短期間で配布、非会員マンション住民からも回答あり。
  - ② 町会役員内部や企業会員へのヒアリングも実施し、アンケート調査結果と合わせて内容を分析。
  - ③ 今回初めて収集した住民の実際の声をもとに、住民との接点を強化する情報発信や役員以外の町会活動への関わり方など7つの施策を提案。他町会の事例も加え、役員内に共有しやすい資料を作成。

JR中野駅の南側、古くは中野氷川神社の参道だった道沿いに住宅街が広がり、戸建てに住む以前からの住民と、新たにマンションに越してくる住民が入り混じる地域です。神社の例大祭をはじめ子ども向けのイベントや防災・防犯活動などもっと盛り上げていきたいと考えていますが、特に新たに越してくるマンションの住民などと接点が作れていない現状があります。そこで今回のプロジェクトでは「直接住民の声を聞いて考えたい」という現町会役員の皆さんの思いを形にし、対象地域の住民の意識調査を初めて実施。並行して実施したヒアリング内容と合わせてプロボノチームが結果を分析し、町会活動に幅広い住民に関わってもらうための施策を提案しました。

▼キックオフ時



▼成果提案時



# 町会活動への関わりしろを生み出すための住民意識調査 & 提案

## 宮三町会[中野区] 構成世帯数 約1,000



### ● プロジェクトの流れ

キックオフ ミーティング	団体とプロボノチームとの初顔合わせ。町会長さん・副会長さんからもこれまでの町会の歩みを伺い、現状の課題感や今回のプロジェクトへのニーズを確認。議論を通じて焦点を絞り込むことができました。
住民アンケート の設計・実施 ヒアリング実施	プロボノチームは町会の認知有無やイベント・活動への期待など住民の声を収集するアンケートを設計し町会側に連携。迅速な町会側の対応で、短期間で非会員を含む約1,000世帯に配布。並行して町会内の青少年部や企業会員の方々へのヒアリングも実施し、子どものいる家庭や地元企業の方々との関わり方のヒントも探りました。
調査結果の分析・報告	プロボノチームが調査結果を取りまとめ、町会イベントに不参加の理由には逆にヒントが隠されていることなど結果を分析して報告。また今回の調査実施で、接点を持ちにくかった非会員の住民からも回答を得られたり、今後町会からの追加ヒアリングに協力可能と答えた住民も複数いるなど副次的な効果もありました。
他事例のサーチ・成果提案	アンケート結果を基に今後の町会イベントの内容や、幅広い住民に活動や運営に参画してもらうための工夫などプロボノチームから7つの施策を提案。参考になりそうな他町会事例も加えわかりやすい資料にまとめました。

### ● 成果物 (一部抜粋)

#### アンケート調査結果(イベントに求めるもの)

- イベントは、**祭礼、神輿、夏祭り**が印象に残っている
- 餅つきやお祭りなど、**子供が楽しめるイベント**に興味度が高い
- 近年の災害の増加等もあり、**防災訓練**を望む声も多かった

#### アンケート集計結果・分析

～町会イベントへの不参加理由～

■20～40代の「不参加理由」に隠れた解決のヒント

内容がよくわからなかった	9票
時間があわなかった	7票
知り合いがいなかった	5票
知らなかった	3票
メリットを感じなかった	2票

若い世代が来ないのは「興味がない」からというよりも、「**中身が見えない不安(9票)**」や「**知り合いがいなかった(一人になることの不安(5票))**」が、彼らの足を止めていると思われます。

- この数値をどう考えますか
- 思いつく対策はありますか

#### 課題と提案②「イベント参加のきっかけ創り」

課題②  
イベントに参加する「きっかけ」「機会」をうまく提供できていない

提案②

【気軽に参加してみたくなるような工夫】

- イベント参加のハードルを下げる(短時間ボランティア等)もらうことから始める
- ひとりの負担が軽減するように仕事を細分化する

【子供が主役となる／実際に体験できる機会の提供】

- 子供が主役/主役となる機会を創る
  - 町会イベントのチラシ制作や告知の手伝い
  - LINE等の活用を一緒に学ぶ機会を創る(町会ホームページ)

#### 課題と提案⑥「町会運営関与を促す工夫」

課題⑥  
町会役員の役割や運営体制が旧態依然としており、住民からあまり良いイメージを持たれていない可能性あり(例えば、一度町会役員になると拘束されるというイメージ等)

提案⑥

【町会運営に対する協力者を増やす工夫】

- 「OB/OGサポーター制」の新設をすることで、役員という重い責任ではなくイベント時のみ手伝う登録制ボランティアを導入
- アンケートの回答において「ヒアリング可」とした住民とコンタクトを取り、町会運営に対する意見聴取を実施

# 交流イベント「四谷つながりフェス」の企画立案とチラシ作成 八王子四谷町会 [八王子市] 構成世帯数 約1,300

## ●プロジェクトと成果物の概要

**支援内容：** 交流イベントの企画立案とチラシ案の作成

- ポイント：**
- ① プロボノチームが複数の地域住民、育成会（子ども会）の方、地域の子ども食堂を運営されている方にヒアリングし、ニーズを把握。
  - ② 町会が目指す姿になっていくための課題整理・ロードマップ案を提案のうえで、今回の成果物となるイベントの位置づけを確認。
  - ③ 初回開催のターゲットとなる子育て世帯に向けた具体的な企画内容・コンテンツを提案し、告知用のチラシ案も作成。

八王子市の中心部に広がる四谷町。八王子四谷町会（構成世帯数：1300世帯、加入世帯数：395世帯）では、資源回収や防犯活動に加え、300年の歴史を持つ市指定無形民俗文化財「四谷の龍頭舞」を大切に継承しています。今年度からは新体制となり、伝統を守りつつ、新たな発想で地域コミュニティを活性化させたいという熱い思いで活動しています。

四谷町会は、子育て世代の転入が増加している一方で、既存の祭りなどの行事の参加者が固定化していて、住民同士の対話が生まれるような交流の機会が不足しているのが現状です。

そこで、住民間の新たな接点を創出し、地域コミュニティを活性化させることを目的とした「住民間の新しい交流イベントの企画立案」と、イベントを告知する「チラシ作成」を支援しました。

### ▼成果提案時



開催された  
イベントの  
様子▶

